

浪江町の復興に向けたフォローアップの枠組み

- 「浪江町第二次復興計画」の着実な進展による浪江町の復興の実現のため、国としての協力の道筋を、①まちづくり、②農林水産業、③商工業の各分野毎に中長期含め工程表として策定。
- 本工程表の実現に向け、国・県・町が一堂に会する「官民協議会（案）」を早期に立ち上げ。解除後も工程表の達成状況を継続的にフォローしていく。
- 本枠組みの下、浪江町のコンテンツを活かした発信プロジェクトの検討会合を年度内に開催。

I. なみえまち再生

II. 農林水産業再生

III. 産業復興

■ 短期（解除後1年程度） ■

- まちづくり会社による町内環境整備、必要な運営支援
- 公共交通、買い物環境、医療・介護環境、防災・防犯体制等の生活環境整備
- 町内小中学校の再開
- 鳥獣害対策（浪江町で総合的な対策としてモデル事業を実施）
- 体験農業等をはじめとする発信プロジェクト開始
- 転入者向け住居整備（空き地・空き家バンクの活用）
- 再エネや水素を活用したスマートコミュニティ整備開始
- 中心市街地再生プロジェクトの実施

- 試験栽培の実施、出荷制限・摂取制限の解除
- 畜産業の再開に向けた検討
- 営農再開支援、土壌改善に向けた検討プロジェクト発動、大学等研究機関との連携
- IT・ロボット等を活用した新しい農業の実現に向けた検討開始
- 担い手確保に向けた体験型農業等の実施
- 里山再生モデル事業の実施
- 体験農業等をはじめとする発信プロジェクト開始（再掲）
- 鳥獣害対策（再掲）

- 企業立地補助金等を活用した企業誘致活動の実施
- 企業マッチングイベントを解除後速やかに浪江町で実施
- 震災前に事業活動していた大企業の再開支援、跡地利用促進
- 空き物件を活用したマッチング、貸しオフィス事業の展開
- 官民チームによる町内事業者の再開支援

■ 中期（2020年末頃） ■

- 公共交通の自動走行化の実証等
- 道の駅、情報発信拠点の整備
- コンテンツを活用した交流人口の増加、若者・子供人口増加の実現
- 高等教育機関との連携、浪江ならではの教育機会の提供
- 津波被災地の復興実現（フラワーロード、パークゴルフ場、復興祈念公園、鮭やな場整備）
- 大堀相馬焼等の伝統文化の再興
- 温水プール等健康施設の整備、健康サポート体制の整備

- 営農再開支援の継続、土壌改善に向けた事業の実施
- 先端技術を活用した農業の一部実施
- 森林資源の活用
- 請戸漁港の整備、流通加工団地整備
- 一次産業従事者人口の増加
- 県外展開・海外輸出の開始

- 産業団地の整備、整備に併せ全国から浪江町に官民ミッションを派遣
- 全国・海外向けに浪江町への集中的な企業誘致活動を展開（シンポジウム、企業誘致セミナー、海外見本市への出展等各種機会も活用）
- ロボットテストフィールド滑走路の整備、北棚塩地区の試験フィールドとしてのニーズ発掘
- 滑走路周辺地域を中心にロボット関連産業の集積促進、海外からの廃炉関係等事業者立地支援
- 地産地消のまちづくりを活かした企業の立地促進
- 様々な知見を持つ若者が集い、多分野間の交流が生まれる場の整備、ロボット技術等先端分野における若手人材の流入

■ 長期（2027年以降） ■

- 2035年に人口約8,000人の実現
- 先端技術を活かした快適で安心できる生活の実現

- 事故前の生産水準を回復
- 風評被害を克服し、国内外に浪江町産の農作物や水産物の販路を拡大

- 震災前の町の商工業の事業規模を実現（事業規模（製造品出荷額）約350億円、雇用者数約1,000人）
- 全国からロボット分野等の高度人材が流入

避難指示解除後の浪江町の中長期的な復興を確実に実現していく。